

## 世界の人とふれあいタイム

「ヒヤシンスのようなナディさんが伝える  
歴史ある、美しいイランの最新情報・・・」



平成26年2月2日(日)実施

今回のスピーカーはイラン・イスラム共和国のテヘラン出身、×××××さんです。ニックネーム：ナディさんは約20年前、7歳の時、家族と来日し、現在は八王子市在住でエンジニアです。ナディさんの両親、弟、友人、コミュニティーのファミリーや幼いころから親しくされた近所の日本の方も参加され、アットホームな雰囲気の中で「ふれあいタイム」は始まりました。



猫の形をしたイランの地図とナディさん

「黒色のチャドールのイラン女性」をイメージする人は多いですが、今どきのイランの若い女性はフェイスブックに自身のおしゃれな画像をアップしたりするそうです。インターネットの厳しいアクセス制限のフィルタを突破するソフトが開発されたりしているのが現状とのことです。

宗教上、イラン国内では酒と豚肉は食することはできません。一部の人が、国外ならよいと、羽目をはすす話がきかれることもあるそうです。

羊の肉を使ったキャバブや、日本では珍しい甘いレモンや、くだものとしてのキュウリがあります。ナディさんの弟は、「ザクロに塩をかけると味が変わり美味しいですよ」補足しました。

昨年10月、10年ぶりにナディさんはイランを訪問したとき、改めて、ドーム状になったバザールの400年前の建築技術の高度さにビックリしたそうです。日中40度を超える季節でもバザールの中は涼しく、雪がたくさん降る冬は比較的暖かいとのことです。

タブリーズは絨毯の産地として歴史があり、高価な絨毯は①たくさん色使い②目が細かい③染色の数が多④デザインがよい⑤有名な工房での制作といった5つのポイントだそうです。

イランのどの家も3m位の塀があり、家の中は広くサロンのようになっていて、人を家に招いて食事をする習慣があり、料理は山盛りの大皿でおもてなしをします。男女はフロアごとに分かれて、女性は男性の目を気にせず好きな恰好でゆっくり食事をすることを好まれるようです。

年に1度、国を上げて、亡くなった方への追悼があり、それは2週間ぐらい続き、各町内のモスクを拠点として、大音量のコーランの祈りをする行列が夜になってもあり、近所の家庭から食事などを振り舞い、この時期は「お腹を空かせた人はイランにはいない」というぐらいで、そのおもてなしの文化は、日本では見られない光景だそうです。

1989年から91年、イランからビザ無しで日本に入国が出来た時期、多くの出稼ぎ労働者の単身者が多い中で、ナディさんのご家族のようにその後、日本に残った家族は少なく、イランでは話題になったそうです。イランでは日本のイメージは「おしん」や「北の国」だったため、来日して違いに驚いたそうです。イラン人は「おしん」のようにがんばった日本人をイメージし、日本人は「イランイラク戦争で大変だったでしょう」とイランの方へ親切にしたそうです。イランの人は「日本語が解らなくても助けてもらった恩を忘れない」と、良好な関係をなつかしく話されました。



イランの地図で確かめる来場者

Q&Aでは、イランの教育について、小学校から落第があるため、塾通いの子ども多いとのこと。高校ま

では男女が別々で、大学に入ると共学になります。結婚前の男女交際は禁じられており、バスの中で、注意をされても恋人たちは動じない様子なので、運転手もそれ以上は言わないのが現状です。

女性は基本的には働いていませんが、職業としては医師や弁護士で、美容師は高収入とのことです。

徴兵制については、18才から2年間義務があり、外国に暮らしている場合は、お金を払うことで免れることもあります。

主なイランの収入源は、ガス、石油の輸出で、燃料が豊富で、安いいため、ちょっと出かけるのに車やタクシーを利用します。裕福な人は高級車を何台も所有し、盗難が横行していることもあり、防犯ブザーの警報音があちらこちらで鳴りやまないそうです。最後に日本についての率直な感想はの問いに、「日本では最初に文系、理系に分けているが、非常にもったいないと思う、幅広く仕事を知ったうえで分けて欲しい」と答えました。また、ナディさんは7年前まで「CCS 世界の子どもと手をつなぐ学生の会」で子ども学習支援の活動をされていました。彼女自身が学童期に勉強でお世話になったからと話していました。アンケートは大変よかったと多くの感想が寄せられました。次回は4月20日10周年記念懇親イベントを予定しています。

世界の人とふれあいタイム委員長 生山 龍哉